

120歳通信 2016年3月号 (617分の42号)

発行元 444-0124 愛知県額田郡幸田町深溝上池田36 G & G 吉見典生
0564-62-8144 Fax0564-62-9696 E-mail papi@tms21.jp papi-pero@i.softbank.jp
URL www.waraiyoga.pw www.tms21.jp Face Book www.facebook.com/norio.yoshimi

ポレポレと歩く雪のキリマンジャロ

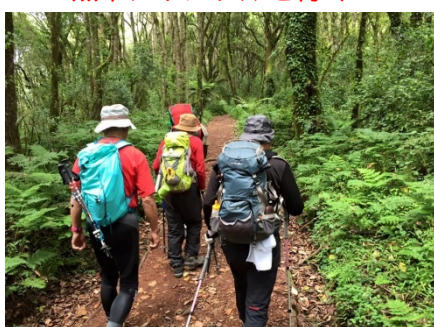


エベレスト登頂に成功した木元正均さんのアドバイスを「125歳宣言の集い in 岡崎」で受けた。それは「ゆっくりゆっくり行くように・・・」ということであった。これをスワヒリ語で書けば「pole pole」となる。私たち4人のキリマンジャロ登山隊に終始援護してくれたポーターたちはいつも「pole pole」と言って、私たちを励ましてくれた。私たちは毎朝キャンプから一番に出発するが次のキャンプに着くまでには外国のすべてのチームに追いつかれ、わたしたちが決って最後に次のキャンプに到着したものである。

さあ出発、今日は節分



熱帯ジャングルを行く



キャンプでの朝





ノルウェーからの女性たちと



悪路も軽々と歩くポーター

このキリマンジャロ登頂の旅はわたしには特別の使命があったのである。「125歳宣言の集い」で講演してくれた渡邊浩さんは「25,000 キロ世界一周徒歩の旅」で「世界平和の為」と断言した。それは本当であろう。



仲間たちに笑いヨガを指導



休憩が何よりうれしい



わたしの使命はある絶体絶命のがん患者を「心で治す」ための実験であったのだ。将来はこの女性をこのキリマンジャロに連れて来る約束をしたのだ。わたしはこの旅の5日目で、岩のごつごつしたところで泣いてしまった。「じゅんちゃん

突然、ハッピーバースデー・ツーユーの歌が・・・
ん、必ずいつかあなたをここへ連れてくるよ!!!」。涙がとめどもなく流れてきた。泣きながら先頭のポーターのあとを歩いた。心の優しい自分自身に対する涙であった。キリマンジャロ登頂の道のりは厳かった。15名のマサイ族のポーターたちは食事・荷物運搬・写真撮影・科学的な健康チェック等を総動員してわたしたち4人を助けてくれた。あるときわたしは大岩をハグしポーターに助けられ渡った。もし手を離せば断崖絶壁にまっさかさまとなっていたであろう。あるときはポーターの一人が、ぼくが転倒する寸前、支えてくれた。あとでそのポーターに「あなたはぼくの命の恩人です」とお礼を言った。2月8日はぼくの誕生日である。キリマンジャロの頂上へ行く道、暗い中で、ぼくの72歳申年の誕生日を祝ってくれた。

氷河



ウフルピーク 5895m